



青葉の笛だより

第50号

令和8年 正月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

ご挨拶

令和八年は丙午の年になります。私が知る午年は

六十年前の昭和四十一年からで、この年に起きた事で紹介され、覚えていることと言えば、二月から三月のひと月ほどの間に、航空機の墜落事故が三件立て続けに起きたことです。六月に国民の祝日法が改正され、今の建国記念日、敬老の日、体育の日が制定されたこと、ビートルズが初来日したこと、テレビ・洗濯機・電気冷蔵庫から、カラーテレビ・クーラー・車が、新三種の神器と呼ばれるようになったことなどです。

中でも子供心ながら印象に残っているのが、丙も午も火や陽の性分を表しているので、火災が多く発生するということ、この年に生まれた人は気性が激しいので結婚に向かない、という話でした。迷信でしかない話なのですが、昭和四十一年は、出生率が下がったと聞いています。

私たちの若かりし頃のお礼は、千円札も五千円札も一万円札も表の肖像画は聖徳太子でした。聖徳太子は日本仏教の育ての親であり、「倭国の教主」「観音の化身」とも呼ばれており、四天王寺や鶴林寺など、聖徳太子ゆかりのお寺は数多くあります。

ご存知と思いますが、その聖徳太子は「厩戸王」や「厩戸皇子」とも称されているほど、馬と縁が深かったそうで、「伊豆風土記」という書物には、「太子は畿内から遠い伊豆や甲斐に、八つの牧場を所持していた」

とあるそうです。当時、馬は財産であり政治力の象徴でもあったようので、その馬を支配していた太子の力が、日本の仏教を育てて下さったのでしょう。

須磨寺の本堂には正面の宮殿を挟む形で、左右に三体ずつの観音様を祀った厨子があります。その向かって左の厨子の左端には馬頭観音様が立つておられます。観音様は私たちを救うために修行を続けておられますが、そのお姿はしなやかで優しい眼差しをしておられます。しかし、馬頭観音様だけは怖い顔をしておられます。それは最も深い慈悲の心の表れなのです。仏法に敵対するものを蹴散らし、雑草を求めするように、衆生の無明煩惱をむさぼり食べて衆生を救済する象徴なのです。他の観音様に比べて性格が明王に近いので、馬頭明王や大力持明王と呼ばれることがあります。

馬頭観音様の信仰は時代と共に変化し、鎌倉時代以降は道中安全を守るための存在として、江戸時代には路傍の分かれ道、峠の難所、交通の要所に建てられ、私たちを苦しみから救い、馬の無病息災を祈る存在として、信仰を集めてきたのです。

また、午年の守り本尊は勢至菩薩ですが、これは「大勢至菩薩」の略称で、智慧の光で迷い苦しむ人を救ってくださる、大地を揺るがす力の持ち主であり、私たちの日常生活の中での願いを「勢至」、偉大な力で叶えて下さる仏様なのです。須磨寺では萬靈堂の「光三尊のご本尊、阿弥陀様の左に立つておられます。

令和八年が、穏やかで良い年になるよう、皆様とご一緒に祈りを重ねてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

大本山須磨寺 貫主

合掌

小池 弘三



一絃須磨琴 保存会 発足60周年 記念演奏会



去る、令和七年十一月十五日、神戸文化ホールの中ホールにて、一絃須磨琴保存会発足六十年周年記念演奏会が開催されました。一絃須磨琴は、平安時代の歌人・在原行平が須磨の海岸で拾った板に冠の緒を張り、即席の琴を奏でて都をしのんだことが始まりと伝えられています。栄枯盛衰あり、衰微の一途をたどった昭和のはじめ頃には、演奏者がほとんどいない状況でした。昭和三十年代に、須磨寺の宝物館に保存されていた須磨琴が、現存日本最古の江戸時代のものだと判明しました。これを受けて、須磨寺前管長・小池義人和尚の呼びかけで、須磨寺を本部として、昭和四十年に保存会を発足しました。

記念演奏会当日には、ほぼ満席の約八百名の来場者にお越しをいただき、須磨・三重塔賛歌など十曲の多彩な曲が披露されました。また、保存会発足当時から六十年の永年表彰が行われ、最高師範の小池美代子先生と、師範の頼廣美子先生が表彰を受けられました。

一絃須磨琴保存会では、須磨寺で水曜日と土曜日に教室を開いております。体験もできますので、ご興味がありましたら、是非須磨寺へお問い合わせください。

今回の演奏会は、一月三十一日の十時より須磨寺客殿にて「初弾きの会」が行われます。

須磨寺の歴史 〈三十六〉

須磨寺寺務所の上のお堂が老朽化のために改修されることになり、それに伴ってお堂の本尊である毘沙門天像も新しく造立されることとなりました。須磨寺にはこの毘沙門天像以外にも本堂の御本尊の聖観音菩薩の脇佛としてもお祀りされていますが、この毘沙門天とはどのような神様なのでしょう。

毘沙門天は元々はインドの神様で、毘沙門とはサンスクリット語のヴァイシュラヴァナを音写したもので、衆生の声をよく聞くことから多聞天とも呼ばれます。もともとは東西南北を守護する四天王のうちの一尊ですが、早くから単独でお祀りされるようになり、日本での早い例としては、聖徳太子が物部守屋と戦った時に奈良県の信貴山に現れたのが初出です。

毘沙門天のご利益としては、五穀豊穡、商売繁盛、家内安全、長命長寿、立身出世など多岐に渡り、七福神の一尊でもあります。

須磨寺の新しい毘沙門天と皆様の縁を結ぶために、令和八年二月頃に毘沙門天像との結縁式など、様々な機会を設けています。また、今まで寺務所上のお堂でお祀りしていた毘沙門天は、須磨寺末寺の昭和寺でお祀りされる予定なので、ぜひとも合わせて御参詣いただき、功德をお受け取り下さい。

除夜の鐘と 千巻心経法要のお知らせ

令和七年十二月三十一日、午後十一時四十五分より例年通り、参拝者の皆様に除夜の鐘を撞いていただきます。先着百八名の方々には、記念品の特別絵馬を授与します。百八番目までの整理券は、午後九時半に鐘撞き堂前にて配布します。

百九番目以降の方も、午前二時までは自由に鐘を撞いていただくことができます。

大晦日の夜当山境内にて、清らかな鐘の音と共に旧年中の煩惱を払い、清々しい気持ちで新しい年をお迎えください。

また、同時刻より護摩堂におきまして、千巻心経法要を執り行います。



当山管長導師のもと、旧年の厄を払い、新たな気持ちで新年を迎えられるよう、太鼓の音に合わせて般若心経を唱えます。

新しい年を迎えるに当たって、旧年にも増して皆で助け合い、仏様の智慧をいただき、明るい気持ちで過ごしていけるよう共にご祈念したいと思ひます。

修正会のお知らせ

令和八年一月一日午後二時より、当山本堂におきまして、新春開運修正会（大般若転読法要）を執り行います。

導師が経題を唱えた後に、職衆各々が経本を展開する「転読」という特殊な読みかたで、総数六百巻に及ぶ長大なお経「大般若経」を読誦します。その功力をもつて皆様の家内安全、厄除開運から、国家安穩、世界平和に至るまで、一年間の無事を祈念します。

祈願札を申し込まれた方には当日本堂にお入りいただき、導師の加持した経本で身体を加持いたします。

新しい一年のご多幸を、皆様と共にご祈念したいと思います。



授与品

一万円 祈願札（木札）・破魔矢・腕輪念珠

五千円 祈願札（紙札）・腕輪念珠

申込期限

一月一日正午まで

須磨寺寺務所にて承ります。

新春特別護摩祈禱

令和八年正月三が日 護摩堂

十時・十二時・十四時（元日は十五時）の三座

〈授与品〉

○ 護摩札（三千円・五千円・一万円・三万円・六万円）

○ 午年守り本尊勢至菩薩特別散華

…小池陽人筆 正月祈禱限定授与

○ 不動明王守（二体）

※ 散華の数には限りがあります。
散華に関しては、無くなり次第終了いたします。

「正月三が日特別護摩祈禱申し込み用紙」にてお申込みください。

受付での直接のお申し込みは、

令和八年一月三日（土）

午後二時の座までお受け出来ます。

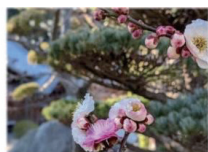
郵送でのお申し込みにも対応させていただきます。

「新春特別護摩祈禱郵送申し込み用紙」をご確認のうえ、お申し込み下さい。

尚、郵送でのお申し込みは

令和七年十二月三十一日（日）必着にて

締め切りとさせていただきますので、ご了承ください。



ご不明な点は、本坊寺務所までお問い合わせ下さい。
「正月三が日特別護摩祈禱受付係」

電話 〇七八―七三一―〇四一六（代）

蓮生院 一月から四月までの行事予定

写経・瞑想体験会

お寺で写経と瞑想の体験会を致します。気軽にできる写経・瞑想ですので、経験のない人でも、お気軽にご参加いただけます。疲れた心を癒しにお越しください。(写経のみ、瞑想のみの参加も可能です。足を組みやすい服装でお越しください)

日時

一月四日(日)・三十一(土)

二月十五日(日)

三月十四日(土)・二十九(日)

写経会 十四時～十五時半 瞑想会 十六時～十七時半

(受付は三十分から)

場所 蓮生院本堂

参加費 写経五百円・瞑想会千円

護摩行

毎月、二十一日十四時から厄除け大師堂で、二十八日十四時から蓮生院本堂で護摩を致します。お参りは自由なので、護摩行中はご自由にお入りください。

写経・瞑想体験会は事前申し込み制です。

数日前から発熱、咳、下痢、頭痛、息苦しさなどありましたら、参加はご遠慮下さい。当日お昼までに蓮生院の寺務所にお申込みいただくかお電話でお申し込みください。

諸事情により取りやめになることがあります。

蓮生院電話番号 〇七八―七三一―二三一一

須磨寺ヨガ、はじまりました

このたび正覚院阿字観道場にて、「須磨寺ヨガ」がはじまりました。地域の皆さまを中心に、心と身体を整える時間をお過ごしいただいております。

講師は、名谷のヨガ・ピラティススタジオ

「treetree studio」の林奈保先生をはじめ、同スタジオの講師陣の皆さま。呼吸を大切にしながら、やさしい動きで身体をほぐし、心を静める時間を導いてくださいます。

阿字観の「阿」は、サンスクリット語で“はじまりと無限”を意味し、すべての命がひとつのいのちに帰ることを表します。

ヨガの語源「Yuj (ユジュ)」もまた、“つながり・調和”を意味します。どちらも呼吸を通して心身をひとつにする道です。

須磨寺ヨガは、主に日曜日の午後に開催しております。

静かな道場で、呼吸をととのえ、心を結ぶ時間をお過ごしください。

林 奈保 treetree studio

問い合わせ先

080-3116-5176 treetreestudio@gmail.com



櫻壽院 秋のバス旅行 高野山団体参拝



高野山でいつも回向、昼食でお世話になっている上池院さんにバス旅行の日程の相談の電話を入れましたところ十月三日に決定。「ちょうど、その日は結縁灌頂の最終日だ」と寺内で話すと、皆が行きたいと言いました。しかし、予約が取れないものと諦めていると、偶然にも高野山から帰省していた弟が「予約とれるよ」と言。それでは、これも何かのご縁と急遽、結縁灌頂を含む年に一度の高野山への団体参拝となりました。当日は微妙なお天気でしたが、傘の出番はナシ。慌ただしいう行程ではありましたが、奥之院参拝、回向、結縁灌頂と充実したお参りが出来ました。

帰り道では偶然にもバスの車窓から万博の花火も見えました。思えば今回は偶然が何重にも重なり、御大師様の導きで結縁灌頂へ入壇できたような不思議な気分でした。これも参加していただいた方々の功德だと思います。ありがとうございました。

布教研修会報告

ご挨拶申し上げます。

須磨寺でお務めをさせていただいております西村仁鶴（じんかく）と申します。管長様より仁鶴さんと呼ばれることがあります。が、落語はできません。

私の出身は鹿児島県でございまして、京都にあります仁和寺にて修行を積んでまいりました。

この度、ご縁頂戴しまして現在にいたします。まだまだ浅学非才な身ではありますが、お檀家様やお参りの方のご縁を大切にしながら日々の精進に努めてまいります。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、去る十月二十九日～三十一日にかけて奈良県にございます長谷寺にて真言宗布教連盟主催の全真言宗青年教師布教研修会に参加をさせていただきました。

この研修会というのは若手僧侶の育成を目的とし十八本山から集まる中、今回は四十名程の参加者の中から約二十名の発表がありまして、私も『法話』の発表を行いました。お檀家様やお参りの方の前でお話しをするものとは違い、僧侶の前での法話の発表でしたのでいつもとは違う緊張感の中でお話しをさせていただきました。また、法話研修の前には本堂でのお勤めに参座させていただき、御本尊様とご縁を頂戴しました。開会式では長谷寺貫主川俣下よりご挨拶をいただき、閉会式では長谷寺事務長吉田僧正様よりご法話を拝聴させていただきました。大変貴重な経験をさせていただきました。

この経験を活かされるよう、日々の務めに精進してまいります所存です。皆様、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



お寺で学ぶ 周活知恵袋

真言宗 須磨寺派 潮音寺 住職 中山 戒仁

お葬式って

必要ですか？

「終活三大迷言を考える」

◆終活の三大迷言

セミナーでお話をさせて頂く際に会場準備をされていてよく耳にする言葉があります。それが「家族に迷惑をかけたくない」「骨はその辺に撒いてくれたらいい」「お葬式は必要ない」の三大迷言です。一見すると遺される家族を想うてのことのように錯覚しますが、私は間違っている、または勘違いしていると思っています。なぜなら遺される人のためになるとは思えませんし、少し無責任ではないかなとも思っています。ただ、今日の葬儀やお墓等の事情を考えるとそのような思いになることも仕方ないのかも知れません。だからこそ今日は、今一度立ち止まって考えて頂ける機会になればと思います。

では、どのようにすれば先ほどの三大迷言を解決する糸口が見つかるのかをお話したいと思っています。まず、「家族に迷惑をかけたくない」は、事前の準備（遺言書等の書面の作成や財産等の整理など）、「骨はその辺に撒いてくれたらいい」は、道義的にも法的にも問題があるので実際に実行される方はないと思いますが、言葉の裏には「家族に迷惑をかけたくない（金銭的負担等）」があるのだらうと思います。しかし、亡くなった後はお骨がその人そのものであって遺された方々にとってお骨を納めた処が心の拠り所になっていきます。遺される方々に負担や迷惑をかけたくないと思われるのであれば、建墓や納骨堂等の選定などの事前に準備をして道筋を付けてあげることも大切なのではないのでしょうか。

それでは三つ目の「お葬儀は必要ない」ですが、今回はこのことについてお話をさせて頂きたいと思っています。

◆「お葬式は必要ですか？」

「葬式は必要ですか？焼いてくれるだけでいい・・・」との言葉をよく投げかけられます。私はその折に「弔うことの意義」、「旅立つ人からの今生で最後の贈り物」、「遺族の心の筋トレ」の三つのことから必要だと思えます」とお答えし

ています。

「弔うことの意義」とは、世界中で古来より多種多様なカタチの死者の弔いや葬送の儀礼は執り行われてきました。日本においても地域によって色々な習慣やお供え物があつたり、お家毎の決まり事があつたりすることは周知のことだと思います。このことから「弔い」という行為は人にとって大切なものだ何となく理解して頂けるかと思いますが。また、「弔い」は故人を追慕し、共に過ごした時間や学ばせてもらったこと・・・数えきれない恩などに感謝し、供養という贈り物を届ける大切な浄行であり、法要の時間は他から邪魔されることのない故人と過ごせる数少ない時間をもつことのできる大切な機会でもあります。

次に「旅立つ人からの今生で最後の贈り物」とは、昔は「お葬儀で故人の偉大さがよく分かる」というお話よくお聞きしました。葬儀の参列者や供花・供物の札の名前で故人の生前の交流やご縁の広さ等を知って改めて故人への尊敬と偉大さを痛感することがありました。また、人ひとりが旅立つ中で多くの教えを自身の命を以て教えて下さるという事です。「死」というものへの恐怖や畏怖・厳肅さ、愛しい人と離別することの苦しさや悲しみ、諸行無常というこの世の定め、例を挙げれば切りがありませんが、その受け止めや感じ方は十人十色だと思いますが、まさにそれが旅立つ人からの命を懸けた最後の贈り物であつて何ものにも代えがたい、尊い教えなのではないでしょうか。

最後に「遺族の心の筋トレ」とは、故人の弔いを勤めながら大切な人を亡くした悲しさや苦しみ、これからの生活や将来への不安などに向き合い、いつもと変わらない世間（学校や会社等）へと戻っていくために努力することが心の筋トレだと思っています。悲しみや苦しみを乗り越え、「無常」という人が抗う事のできない真理に向き合つてそれが得たものが、みなさんの心を優しく温かく、そして強く大きく育んでくれる、強靱でありながらも柔軟で瞬発力のある心になつてくれると思います。

ただ気を付けて欲しいことは、普通の筋トレと同じように無理をしないことです。普通の筋トレや運動でも無理をし過ぎると筋肉痛になつたり怪我をしたり、止めてしまつたりという経験は皆さんにもあるかと思いますが。大切な方を亡くした悲しみ・寂しさ・つらさ等の大きさはそれぞれで異なるでしょうし、今までに大切な方を送られたことのある方や人生経験等、いわゆる心の基礎体力のある方と初めての方

とでは負荷が異なるはずですが。ですからそれぞれの歩幅で歩を進めて頂いて、周囲のチカラをお借りして少しずつ心を育んで頂いてもらいたいと思います。また、心の疲れている方が居られたら、みなさんの経験値や体験を生かして手を指し伸べて支えてあげて下さればと思います。

この三本の柱の意味や大切さは、「葬儀」という大切な儀礼儀式を勤める中で気づき実感していくものだと思っています。この三本の柱を旨に、そして、みなさんにとって大切な方から頂いた教えを旨に、お知り合いの方が大切な方を亡くされた時に支えになつてあげて欲しい、寄り添つてあげて欲しいと思います。それはみなさんお一人おひとりにしかできない、尊い浄行だと思っています。その浄行がより多くの方々の倅せの種を蒔くことになり、その種を見守りつづき育み芽が出て倅せの花を咲かせるチカラになつてくれるはずです。人ひとりが旅立つという一大事において、葬儀の大切さの一端が伝わればと思います。

◆「送る倅せ、送られる倅せ」

最後にお坊さんとして感じてきたことを少しお話させて頂きます。それは、「送る倅せ、送られる倅せ」があるということです。最期を迎える時に死への恐怖・不安・悲しみ・悔い・・・など言葉にならない苦悩が交錯するのだと思いますが、自分にとって大切な人がいる、大切な人が傍に居てくれる、手を握つてくれて温もりを感じられる・・・、それらのことが苦悩を取り除き安心して旅立つことができるのではないかと思います。また、大切な人をきちんと送つてあげられるのは、旅立つ人のことをよく知っている身近な人だからこそ出来るお見送りのお手伝いであり、遺された方々の後々の心の安寧と新しい生活スタイルに進むために大切な務めだと思っています。

コロナ禍以後の急速な葬儀のカタチの変化や葬儀業界（他業種の参入による商業化、生活状況の厳しさとも相まって葬儀を出すことが難しいという相談や事後的に葬儀をして欲しいとの相談も増えてきています。どのようなカタチであつても大切な方を弔うことは出来ますから、ご縁のあるお寺さんやお坊さん、居られなければ知人友人等にお寺さんやお坊さんを紹介してもらつて相談してみてください。いいアドバイスは頂けるはずですが。弔いや供養をあきらめないでください。旅立つ人が安心して出発できる、見送る人が悔いなく送つてあげられる、そのお手伝いをして下さるお寺さんやお坊さんは必ず居られます。お葬儀や弔いの意義やみなさんにとっての葬儀や弔いを見つめ直す一助になれば幸いです。

仙師逍遙

金木犀 銀木犀 柅木犀と確かな足音を
残して通り過ぎてゆく時の流れを、ふと身
体に感じて立ち止まったりすること有りませ
んか。新しい出会いの中で何気なく口にする
言葉に、懐かしい人の面影が浮かんできて
戸惑ったり、齢を重ねることがなんだか妙に
楽しくなったり、ほくそ笑む自分自身を笑っ
てしまう時間を持つこと有りませんか。

「先生と言われるほどの馬鹿でなし」
ある教室の講座を終えて、帰り支度をして
いた時に何の脈絡もなく頭に浮かんできた
この言葉は、文豪太宰治が紹介して有名に
なった台詞で、もともとは江戸時代に編纂
された川柳集の中の一句。江戸期は知らず、
先生と呼ばれる職業があらゆる分野で氾濫
している昨今では、解釈が甚だ難しく、そ
の意味するところも使われ方もさまざまに
形を変えているようです。

もともと芸術、美術界は別として、もの
づくりの世界で職人を自認する仲間内では、
先生と呼ばびまた呼ばれることは普通であ
りません。

ただ、世の中に生きているうちにはいろ
いろ予期せぬことがおこるものです。

三十代半ばに、福岡の篠栗南蔵院様から
仏像彫刻教室の講師のご依頼を頂きました。
た。いまとなれば、四十五年続くことにな
る薫風会仏像彫刻教室の始まりですが、当
初はそんなことになるとは思ってもみませ
んでした。

その教室の初日、いきなり先生と呼ばれ
ました。教わる側からすれば当然かもしれ

ませんが、呼ばれた私は突然のことに大い
に戸惑いました。そして戸惑いながら正直
なところ、内心とても嬉しい気分を満たさ
れました。

それはそうでしょう。四半世紀も違う、
錚々たる肩書を持たれた人たちから、若輩
者の職人が先生と立てられて気分の悪から
うはざがありません。

幸いなことに、そのまま先生の呼称を普
段着のように身に纏うほど鈍感でもありま
せんでしたから、それなりの自重のもとに、
反省をミルフィーユのように積み重ね、苦
労も、多少の努力も荷物の中に加えて、今
日までなんとか続けられています。

人が人に物事を教えると言うことは一通
りのことではではないと、つくづくそう思
えますし、私の人生において教室を持てた
ことで、何より外側から自分自身を見る習
慣を、図らずも養うことが出来ました。今
更ながら、ご縁をいただいた方々、先生と
呼んでくださった方々に、感謝の思いを持
たずにいられません。

その中のお一人に上野さんと言われる方
がいます。ふた周りの年齢差と言えば、人
間としての格差がもう縮まることは有りま
せん。

戦後、北朝鮮から命からがら無一物で引
き上げてこられて、両親を亡くした五人
兄妹の中のだ一人の男として一家を支
え、自力で勉学に励み裁判所の事務員から
スタートして、長年裁判所判事、裁判長を
務め上げられたあと、退官し絵や言語など
習い事を楽しみながら暮らす日々の中で、
八十歳を過ぎてNHKカルチャーの仏像彫
刻教室に入会し、私に出会ったとそう話さ
れました。

教室だから、それは少しはお教えた
でしょうが、微々たるものです。寧ろ教え
てもらったことの方が多くことは語るまで
ありません。「世のため、老人ができる
のは若い人たちを応援することだけ」が口
癖で、簡潔な言葉が生きていて重く、まじ
に先生と呼ぶに相応しい方に、けれど私は
先生と呼ばれ、「はい」と答えています。

どれほど知恵を持ち知識を蓄えた人とい
えど、世の中に知らない分野はあります。
たとえ些細な事柄にしろ、「知ること」を
楽しめる上野さんだから、私の話すことを
心から楽しまれているのがお話ししてい
て分かりました。だからこそ私は先生でいら
れます。

最近のこと、「いい本を見つけました」と、
目を輝かせて話されたのは、吉野弘さんの
詩集。

たまたま、私もファンで同じ文庫本を
持っていました。「私も好きです」と言う
何気なく口にした言葉を、あんなに喜べる
ものでしょうか。まるで、遠来の古い同志
を迎えたかのように、教室の後、暫く話が
弾みました。

その詩集の中にもあります。

「生命は」

生命は
自分自身だけでは完結できないように
つくられているらしい
花も

めしべとおしべが揃っているだけでは
不十分で

虫や風が訪れて
めしべとおしべを仲立する

生命は
その中に欠如を抱き
それを他者から満たしてもらおうのだ
(中略)

花が咲いている
すぐ近くまで
蛇の姿をした他者が
光をまとって飛んできている

私も あるとき
誰かのための蛇だったろう

あなたも あるとき
私のための風だったかもしれない

人は互いに認め合うことで、助け合い補
い合うことができます。掛け替えない大
切な存在になることができます。

先生であることを、先生と呼んでくださ
る方のあることを、いつまでも素直に喜び、
感謝できる自分になりたいと思います。

小気味よく晴れ渡った空へ、少しだけ開
けた窓から、彼の方も大好きだった蠟梅の
甘い香りがしのびやかに漂よってくる須磨
工房です。

須磨寺大仏師 山高龍雲



令和8年 年間行事 予定表

令和8年 年忌数え年早見表

1月		
■ 1日	(元旦)14時	開運修正会(大般若転読) 須磨寺本堂
■ 3ヶ日		
10・12・14時(1日は15時)		
正月特別護摩祈禱 本坊護摩堂		
■ 8日	11時半	薬師寺鬼追い式 頼政薬師寺
■ 17日	5時30分	大震災物故者慰霊法要 須磨寺本堂
10時 大震災物故者慰霊法要 本坊客殿		
■ 28日～2月3日 5時15分		
寒行(星祭護摩祈禱) 本坊護摩堂		
2月		
■ 3日		
14時 節分星祭護摩祈禱 本坊護摩堂		
15時 節分星祭祈禱 蓮生院		
13時から16時 節分星祭祈禱 桜寿院		
■ 12日	15時	須磨寺先師忌土砂加持法要 本坊客殿
■ 15日		涅槃会 須磨寺本堂
3月		
■ 7日		
14時 敦盛祭 須磨浦公園 敦盛塚		
■ 11日	14時30分	東日本大震災 自然災害物故者慰霊法要
■ 17日～23日 彼岸会(特別護摩祈禱)		
■ 25日	14時	平教盛・源平戦士追悼法要 須磨寺本堂
4月		
■ 5日		
10時 十三まいり 春季大祭 のんのまつり		
本尊慶讃法要 須磨寺本堂		
■ 6日～8日		
花まつり 灌仏会 甘茶お接待		
■ 17日	9・12・15時	青葉殿 納骨供養祭 青葉殿
■ 25日	11時	亜細亜万神歌法要 万神殿
■ 29日		須磨寺茶会 一絃須磨琴演奏会とお茶席
5月		
■ 7日		
14時 正御影供 法要 須磨寺本堂		
6月		
■ 15日		
10時 弘法大師降誕会 本坊大師堂		
7月		
■ 30日		
子供寺子屋修行		
8月		
■ 9日		
18時 四万六千日法要(みあかり観音)		
■ 12日～15日		盂蘭盆会
■ 15日	10時	盆大施餓鬼法要(本坊) 本坊客殿
■ 17日	9・12・15時	青葉殿 盂蘭盆会法要 青葉殿
■ 19日	14時	盆大施餓鬼法要(桜寿院) 桜寿院本堂
■ 20日	14時	盆大施餓鬼法要(蓮生院) 蓮生院本堂
■ 23日	15時	地藏盆
9月		
■ 20日～26日 彼岸会(特別護摩祈禱)		
10月		
■ 4日		
シベリア戦没者慰霊祭 シベリア慰霊碑		
■ 10日		えほん寺びー 青葉殿
11月		
■ 23日(祝)11時 須磨の火祭り 柴燈護摩 本坊		
12月		
■ 31日		
23時45分 千巻心経護摩法要 本坊護摩堂		
除夜の鐘 鐘楼堂		
(21時30分 除夜の鐘 整理券配布)		
■ 毎月18日 10時		
写経会 本坊客殿		
■ 毎月20・21日		
お大師さん(縁日)		
■ 毎月3・8・13・18・20・21・23・28日 10時		
護摩祈禱		

う ま	み	た つ	う	と ら	う し	ね	い	い ぬ	と り	さ る	ひ つ じ
午	巳	辰	卯	寅	丑	子	亥	戌	酉	申	未
令和8年 2026	令和7年 2025	令和6年 2024	令和5年 2023	令和4年 2022	令和3年 2021	令和2年 2020	令和元年 2019	平成30年 2018	平成29年 2017	平成28年 2016	平成27年 2015
1 ● 羅喉星	2 ● 土曜星	3 ● 水曜星	4 ● 金曜星	5 ○ 日曜星	6 ● 火曜星	7 ● 計都星	8 ○ 月曜星	9 ○ 木曜星	10 ● 羅喉星	11 ● 土曜星	12 ● 水曜星
平成26年 2014	平成25年 2013	平成24年 2012	平成23年 2011	平成22年 2010	平成21年 2009	平成20年 2008	平成19年 2007	平成18年 2006	平成17年 2005	平成16年 2004	平成15年 2003
13 ● 金曜星	14 ○ 日曜星	15 ● 火曜星	16 ● 計都星	17 ○ 月曜星	18 ○ 木曜星	19 ● 羅喉星	20 ● 土曜星	21 ● 水曜星	22 ● 金曜星	23 ○ 日曜星	24 ● 火曜星
平成14年 2002	平成13年 2001	平成12年 2000	平成11年 1999	平成10年 1998	平成9年 1997	平成8年 1996	平成7年 1995	平成6年 1994	平成5年 1993	平成4年 1992	平成3年 1991
25 ● 計都星	26 ● 月曜星	27 ○ 木曜星	28 ○ 羅喉星	29 ○ 土曜星	30 ○ 水曜星	31 ○ 金曜星	32 ○ 日曜星	33 ● 火曜星	34 ● 計都星	35 ○ 月曜星	36 ○ 木曜星
平成2年 1990	平成元年 1989	昭和63年 1988	昭和62年 1987	昭和61年 1986	昭和60年 1985	昭和59年 1984	昭和58年 1983	昭和57年 1982	昭和56年 1981	昭和55年 1980	昭和54年 1979
37 ● 羅喉星	38 ● 土曜星	39 ○ 水曜星	40 ○ 金曜星	41 ○ 日曜星	42 ● 火曜星	43 ● 計都星	44 ○ 月曜星	45 ○ 木曜星	46 ● 羅喉星	47 ● 土曜星	48 ● 水曜星
昭和53年 1978	昭和52年 1977	昭和51年 1976	昭和50年 1975	昭和49年 1974	昭和48年 1973	昭和47年 1972	昭和46年 1971	昭和45年 1970	昭和44年 1969	昭和43年 1968	昭和42年 1967
49 ● 金曜星	50 ○ 日曜星	51 ● 火曜星	52 ● 計都星	53 ○ 月曜星	54 ○ 木曜星	55 ● 羅喉星	56 ● 土曜星	57 ● 水曜星	58 ● 金曜星	59 ○ 日曜星	60 ● 火曜星
昭和41年 1966	昭和40年 1965	昭和39年 1964	昭和38年 1963	昭和37年 1962	昭和36年 1961	昭和35年 1960	昭和34年 1959	昭和33年 1958	昭和32年 1957	昭和31年 1956	昭和30年 1955
61 ● 計都星	62 ○ 月曜星	63 ○ 木曜星	64 ○ 羅喉星	65 ○ 土曜星	66 ○ 水曜星	67 ○ 金曜星	68 ○ 日曜星	69 ○ 火曜星	70 ○ 計都星	71 ○ 月曜星	72 ○ 木曜星
昭和29年 1954	昭和28年 1953	昭和27年 1952	昭和26年 1951	昭和25年 1950	昭和24年 1949	昭和23年 1948	昭和22年 1947	昭和21年 1946	昭和20年 1945	昭和19年 1944	昭和18年 1943
73 ● 羅喉星	74 ● 土曜星	75 ○ 水曜星	76 ○ 金曜星	77 ○ 日曜星	78 ● 火曜星	79 ● 計都星	80 ○ 月曜星	81 ○ 木曜星	82 ● 羅喉星	83 ● 土曜星	84 ○ 水曜星
昭和17年 1942	昭和16年 1941	昭和15年 1940	昭和14年 1939	昭和13年 1938	昭和12年 1937	昭和11年 1936	昭和10年 1935	昭和9年 1934	昭和8年 1933	昭和7年 1932	昭和6年 1931
85 ● 金曜星	86 ○ 日曜星	87 ● 火曜星	88 ● 計都星	89 ○ 月曜星	90 ○ 木曜星	91 ○ 羅喉星	92 ● 土曜星	93 ● 水曜星	94 ● 金曜星	95 ○ 日曜星	96 ● 火曜星
昭和5年 1930	昭和4年 1929	昭和3年 1928	昭和2年 1927	【大厄】 男性：41・42・43歳 女性：32・33・34歳 【厄】 男性、女性 60・61・62歳 【厄】 男性：24・25・26歳 女性：18・19・20歳 【小厄】 女性：36・37・38歳							
97 ● 計都星	98 ○ 月曜星	99 ○ 木曜星	100 ● 羅喉星								

令和8年の当たり星の吉凶表

○	○	●	●	○	●	●	●	●	●
大 木曜星	大 月曜星	大 計都星	大 火曜星	大 日曜星	半 金曜星	末 水曜星	半 土曜星	大 羅喉星	九曜星
この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬようして下さい。来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬようして下さい。来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬようして下さい。来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬようして下さい。来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬようして下さい。来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬようして下さい。来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬようして下さい。来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬようして下さい。来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬようして下さい。来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	左記をよく心得て常に信仰と努力とを忘れてはなりません。 「九曜星は数え年早見表を参照」

令和八年 年忌一覽

一周忌	令和七年亡	二十五回忌	平成十四年亡
三回忌	令和六年亡	二十七回忌	平成十二年亡
七回忌	令和二年亡	三十三回忌	平成六年亡
十三回忌	平成十六年亡	三十七回忌	平成二年亡
十七回忌	平成十二年亡	五十回忌	昭和五十二年亡
二十三回忌	平成十六年亡	百回忌	昭和二年亡